

事業所名	グループホーム みんなの家そよかぜ
日付	2009/3/23
評価機関名	特定非営利活動法人 高齢者・障害者生活支援センター
評価調査員	介護支援専門員 介護福祉士 社会福祉主事 認知症ケア専門士 訪問介護員
自主評価結果を見る	
評価項目の内容を見る	
事業者のコメントを見る（改善状況のコメントがあります！）※	

2. 評価結果（詳細）

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
	弘友会の理念をもとに、「泉のころ、奉仕のころ、感謝のころ、尊敬のころ、プロのころ」を基本に、「明るく 楽しく 和やかに」をモットーに入居者の方一人ひとりが、自分らしく毎日笑顔で生活できるように支援している。季節を感じてもらうために、室内、食事、行事等に工夫をしながら入居者の健康的な生活を支援することを目指している。		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
	共有スペースでは、季節の飾りつけをしたり、音楽を流したり、朝ドラ、時代劇、クイズ番組などそれぞれ入居者さまの個性・生活歴に合わせた生活を楽しんでいたように、時間の流れに工夫をし、心地良い場づくりにみんなで取り組まれていた。		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人ですることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりにあわせて調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	

1. 評価結果の概要

<p>講評</p> <p>全体を通して（特に良いと思われる点など）</p> <p>○ 基本理念「泉のころ、奉仕のころ、感謝のころ、尊敬のころ、プロのころ」を基本に、「明るく 楽しく 和やかに」をモットーに入居者の方一人ひとりが、自分らしく毎日笑顔で生活できるように支援されていました。</p> <p>○ 季節を感じてもらうための室内、食事、行事等の工夫と入居者の健康、自立、尊厳のある生活への支援に管理者・職員が協働してコミュニケーションを図り、積極的なケアサービスの質の向上が図られていました。</p> <p>職員間の関係も非常に良好で職員の質の良さが、業務に反映されていました。</p> <p>○ 職員の介護に対する姿勢は現状に満足することなく常に前向きで、基本理念を踏まえながら、各自大きな目標と小さな目標を考え、日々の業務の中で介護技術の伝達・自己研鑽による職員間の質の向上に努められていました。</p> <p>又、大きなグループ事業にありがちな部署々が孤立せず、グループ事業体のサポート体制も充実し、その機能も十分に果たされていました。</p> <p>○ 医療・看護との連携も充実し、健康管理の面で安心できるグループホームは、施設々したグループホームではなく、入居者の方に住み慣れた家での自立と尊厳のある生活をしていただけるように管理者・職員が協働してコミュニケーションを図り、家族も含めたケアが実施されていました。</p>
<p>特に改善の余地があると思われる点</p> <p>特に改善というわけではありませんが、現状に満足することなく、これからも常に向上心に沿った改善を心がけ、管理者、職員が一つになり入居者中心の支援に取り組まれる事を期待しております。</p>

III ケアサービス（つづき）

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にされた整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物物の支援	○	
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
	生活リハビリとして、生活盾や経験（畑づくり・針仕事・調理・掃除・文芸・その他）を念頭に置いて常に自立を目指して入居者一人ひとりの「できる事」を大切に支援が行われており、日々の暮らしの中でも（食事・排泄・入浴・整容など）プライバシーに配慮した取り組みがなされている。個人情報や書類の保管などもプライバシーの保護に配慮した取組みがなされている。		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	災害対策	○	
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
34	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
35	運営推進会議を活かした取組	○	
36	地域との連携と交流促進	○	
37	ホーム機能の地域への還元	○	
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か		
	主治医および家族との連携も十分に行なわれ、ニーズの充実を図り、健康管理に努めている。気候や入居者の様子・体調を見ながら出来るだけ散歩に出掛け、四季の変化を肌で感じて頂き、自然な形で残存機能の低下防止に努め、入居者の自立に繋がる介護を心掛けている。隣接するデイサービスにも行事などがあるときには出かけるなどして楽しめる機会を設けている。定期的にケアカンファレンスや内部・外部研修を行い、資質の向上とグループ事業体全体で連携がとれる体制が確立されている。日々現場での介護技術の伝達と自己研鑽による職員間での助け合いに努め、勉強会、研修への参加も全職員が参加できるように心がけ、全体の質の向上に努めている。		